

（様式１）実施報告書

1 応募者情報

（１）応募者団体情報

団体名	大阪府
-----	-----

2 事業の概要

（１）全体概要

①事業の名称	地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業 (府内市町村の識字・日本語学習活動への支援)
②目的等	1 目的 在留外国人が増加している中、日本語能力が十分でない外国人等が生活に必要な日本語能力を身に付けられるよう、府と市町村や関係機関等が連携し、識字・日本語学習環境を強化するための支援体制づくりを行い、学習機会の確保を図る。 2 本事業を通じて構築を目指す体制の全体像 【現在の状況】 識字・日本語教室を所管する市町村に、府が識字・日本語学習に関する情報提供や情報交換の場を設けることで、府と市町村が連携し、識字・日本語学習環境を強化するための支援を行っている。 さらに、本事業を活用することで、市町村への財政的な支援、市町村域を越えた取組など府や市町村、関係機関等とのより一層の連携強化を図っているところである。 【構築を目指す体制】 The diagram illustrates the 'Comprehensive System for Japanese Language Education in Osaka Prefecture'. At the top is 'Osaka Prefecture' (大阪府), which includes the 'Osaka Literacy and Japanese Language Association' (大阪識字・日本語協議会) and a 'Comprehensive Coordinator' (総括コーディネーター). Below this is 'Municipalities (excluding designated cities and towns)' (市町村 (政令指定都市除く)). This level includes 'City A' (A市) and 'City B' (B町). Each city has a 'Local Japanese Language Education Coordinator' (地域日本語教育コーディネーター) and 'Local Japanese Language Classrooms' (地域の日本語教室). The diagram shows 'Coordination and Cooperation' (連携・協力) between the prefecture and municipalities, and between the coordinators and classrooms within each municipality. At the bottom, 'Related Organizations and Groups' (関係機関・団体等) are shown with 'Coordination and Cooperation' (連携・協力) with the municipalities. A box on the left titled 'Municipal Support' (市町村補助) lists support for personnel, travel, and other costs. 〈市町村補助〉：地域の日本語教育を推進する市町村に対し、人件費、諸謝金、旅費・交通費、消耗品費、雑役務費、委託費、補助金等を補助する。(国の補助要件どおり)

(2) 令和4年度事業の概要

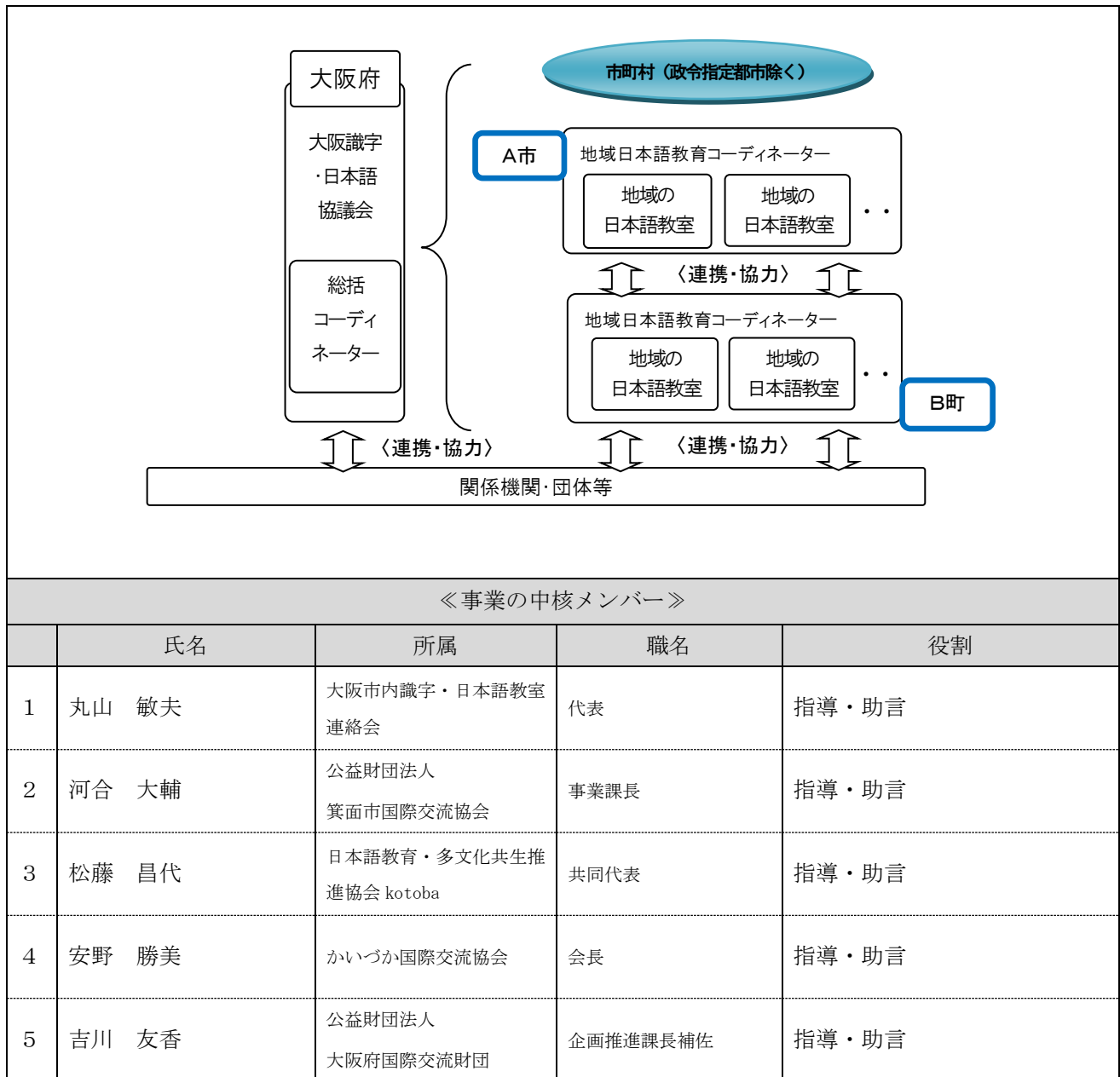
①事業の期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日（12カ月間）
②前年度までの年次計画における進捗状況	
前年度については、総括コーディネーターを3名配置し、2回の総合調整会議を行い、府内の識字・日本語学習に係る取組に対する意見を交換し助言を得ることができた。また、令和2年度と令和3年度の市町村における地域日本語教育の実施への参加人数の増加を数値目標としているが、新型コロナウイルス感染症感染拡大による緊急事態宣言発出に伴う教室の休講など、数値の単純比較が難しい点はあるものの、箕面市においては、本事業を活用して新設した教室が継続的に開講されるとともに、貝塚市においては、本事業を活用した日本語ボランティアのためのイラストを使用した学習支援講座が開催されるなど、学習者や学習支援者を支援する取組の計画は順調に進捗していると判断している。	
③前年度までの成果と課題	
総括コーディネーターの訪問ヒアリングでは、一部の市町村で、本事業活用によりオンライン学習環境の整備が進展し、コロナ禍でも学習を継続することができている等、域内全体の識字・日本語学習環境が強化されているという成果の声があった。 一方、本事業を活用した各市町村の取組事例を紹介してほしいといった声や、大阪府教育庁が作成した日本語学習教材について効果的な活用方法を伝達してほしいといった要望もあった。府と本事業を活用している市町村間だけでなく、府内全域において好事例の発信や情報交換等をさらに進め、情報共有を図っていくことが課題として挙げられる。	
④令和4年度の目標	
令和4年度については、③の課題を踏まえた上で、府と市町村との情報共有及び連携をさらに進めるように努める。具体的には、補助事業を活用した市町村の日本語教育の取組への財政的な支援の実施、府内の識字・日本語学習行政担当者が一堂に会する「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催を引き続き行う。さらに、文化庁の地域日本語教育コーディネーター研修修了者や国際交流協会の役員等で構成されている府の識字・日本語学習コーディネーターと総括コーディネーター等との会議である「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」に、本事業の地域日本語教育コーディネーターや本事業に参画する市の担当者等が加わり、情報交換や情報共有の場を新たに設けることにより、各コーディネーター間の連携を深め、地域の識字・日本語学習活動の充実を図る。また、総括コーディネーター等が講師として直接市町村や教室を訪問し、運営者や学習支援者等を対象として行う出前講座や、市町村ごとに行われていた人材育成研修の広域化、府が中心となって行う市町村や教室に向けた教材等の情報提供や好事例の発信などの取組をさらに推し進めていく。	

⑤令和4年度の主な取組内容

- ・「大阪識字・日本語協議会」（総合調整会議）の開催
- ・総括コーディネーターの配置
- ・日本語教育の取組（地域日本語教育の実施・日本語教育人材への研修等）を実施する市町村への支援
- ・地域日本語教育コーディネーターの配置
 - 〔 ・ 地域内の教室を巡回し、情報収集や助言（運営者・学習支援者）等を行う。 〕
 - 〔 ・ 総括コーディネーターと連携し、情報共有を図る。 〕
- ・総括コーディネーターを中心とした府や市町村と関連団体等との連携・協力体制の強化
 - 〔 ・ 「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催（情報交換・共有） 〕
 - 〔 ・ 総括コーディネーターによる訪問ヒアリング（事例収集） 〕
 - 〔 ・ 「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」の開催（有識者からの助言） 〕

3 事業の実施体制

(1) 実施体制



(2) 域内の市区町村、関連団体等との連携・協力体制

- ・ブロック交流会や見学会等、市町村域を越えた取組を推進するため、ブロック会議を開催し、府と市町村、市町村間の連携・協力体制の構築を図った。
- ・「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」と「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」を合同で開催し、府内の識字・日本語学習行政担当者と大阪府識字・日本語学習コーディネーターの連携を図った。
- ・前年度に引き続き、「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」に公益財団法人大阪府国際交流財団に参画いただき、連携・協力を図った。

4 令和4年度の実施内容

(1) 実施内容

1. 広域での総合的な体制づくり				
【必須項目】				
(取組①) 総合調整会議の設置				
①構成員				
	氏名	所属	職名	役割
1	上杉 孝實	京都大学	名誉教授	指導・助言
2	森 実	大阪教育大学	名誉教授	指導・助言
3	高橋 定	識字・日本語連絡会	副代表幹事	指導・助言
4	柴原 浩嗣	一般財団法人 大阪府人権協会	業務執行理事兼 事務局長	指導・助言
5	丸山 敏夫	識字・日本語センター	事務局長	指導・助言
6	有田 典代	特定非営利法人 関西国際交流団体協議会	理事	指導・助言
7	石橋 由紀子	特定非営利法人 市民活動フォーラムみのお	元副理事長	指導・助言
8	池上 成之	大阪府教育庁 市町村教育室 地域教育振興課	課長	行政担当者
9	山本 茂雄	大阪府府民文化部 都市魅力創造局 国際課	課長	行政担当者

10	田邊 雅之	大阪府府民文化部 人権局 人権擁護課	課長	行政担当者
11	比嘉 直子	大阪府教育委員会事務局 生涯学習部 生涯学習担当	課長	行政担当者
12	松尾 敏之	堺市市民人権局 人権部 人権推進課	課長	行政担当者

②実施結果

実施回数	大阪識字・日本語協議会 2 回＋大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 3 回
実施 スケジュール	6 月 大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 7 月 大阪識字・日本語協議会 10 月 大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 1 月 大阪識字・日本語協議会担当者連絡会 3 月 大阪識字・日本語協議会
主な検討項目	識字・日本語学習活動支援に係る取組について ・行政における取組の集約と推進 ・民間における取組の拡大・充実 ・行政と民間の協働体制の強化・充実 等

（取組②－１）総括コーディネーターの配置

- ・総合調整会議である「大阪識字・日本語協議会」の指導・助言を受けながら府職員 3 名が総括コーディネーターとして業務に当たった。役割分担は、下記の通りとした。
 総括コーディネーター 1（吉村 由佳） 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組（取組 1－③）及び市区町村を支援して実施する日本語教育（取組 2－①）を担当。また、総括コーディネーターのうち、主として本事業の統括を行った。
 総括コーディネーター 2（松村 平） 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組（取組 1－③）及び市区町村を支援して実施する日本語教育（取組 2－①）を担当。また、総括コーディネーターのうち、副として総括コーディネーター 1 を補佐した。
 総括コーディネーター 3（種谷 賢吾） 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組（取組 1－③）及び市区町村を支援して実施する日本語教育（取組 2－①）を担当。また、総括コーディネーターのうち、副として総括コーディネーター 1 を補佐した。
- ・総括コーディネーターは適宜府内巡回等を行い、地域日本語教育コーディネーターと連携し府内の識字・日本語学習環境を強化するための支援体制づくりを行った。

(取組②ー２) 地域日本語教育コーディネーターの配置に向けた取組

地域日本語教育コーディネーターの配置【 ○ 】

地域日本語教育コーディネーターの候補者育成支援【 】

- ・令和４年度は、府内 11 市に地域日本語教育コーディネーターを配置し、地域日本語教育コーディネーターが当該地域や在住する外国人の特性等に対応した教育プログラムの策定や、地域内の教室巡回等を行い、担当する市町村や教室へ指導・助言を行った。

【重点項目】

(取組③) 都道府県等の域内における日本語教育の実施に関する連携のための取組

- ・「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催

府内 43 市町村の識字・日本語学習担当行政職員を招集した会議を年 2 回開催した。

【目的】

- ・識字・日本語学習活動支援の取組が推進されるよう、取組の目的等を説明し、市町村担当者との認識の共有を図る。
- ・府内を 8 ブロックに分け、ブロック別の担当者連絡会議を開催し、ブロック交流会や教室見学会等、各ブロックでの取組が充実されるよう、担当者のネットワーク化を図る。

【主たる内容】

第 1 回：令和 4 年度識字・日本語学習支援の取組説明

専門部会の説明（ネットワーク拡大部会、研修部会、情報収集・発信部会）

ブロック会議（ブロック交流会、教室見学会等について）

第 2 回：識字・日本語学習担当職員相談対応研修

テーマ：外国人相談の基本 ～大阪で安心して暮らしていただくために～

講 師：吉川 友香、常見 仁美（公益財団法人大阪府国際交流財団）

ブロック会議（ブロックにおける取組の進捗状況や課題等についての協議）

専門部会（ネットワーク拡大部会、研修部会、情報収集・発信部会）

- ・「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」の開催

識字・日本語学習活動に長年取り組み、府内の識字・日本語学習活動に関するネットワークを有している、文化庁の地域日本語教育コーディネーター研修修了者や国際交流協会の役員等で構成されている大阪府識字・日本語学習コーディネーターと総括コーディネーター等との会議を年 3 回開催した。

【目的】

- ・各コーディネーター間の連携・協力を図りながら、識字・日本語学習に係る情報の交換・共有を進めることで、効果的な府内の識字・日本語学習活動支援の在り方を検討する。
- ・当会議に、本事業の地域日本語教育コーディネーターや参画市の行政担当者等が参加する場を設けることにより、各コーディネーターと行政との間で先進事例や情報の共有を図り、地域の識字・日本語学習活動の充実に資する。

【主たる内容】

第1回：令和4年度識字・日本語教室支援のための施策について

第2回：識字・日本語学習担当職員相談対応研修について

府内各ブロックにおける取組と課題等について

第3回：令和4年度識字・日本語学習活動支援の取組について

令和4年度識字・日本語教室等現況調査について

2. 市区町村の日本語教育の取組への支援

(取組①) 市区町村を支援して実施する日本語教育

- ・府内14市（豊中市、池田市、箕面市、吹田市、茨木市、枚方市、交野市、東大阪市、柏原市、河内長野市、松原市、和泉市、貝塚市、阪南市）が実施する地域日本語教育に係る取組に対して支援を行った。

豊中市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】419人

<活動1>

【名称】南部にほんご教室

【目標】外国人が日本語を習得することによって、就労や生活に役立て、安心して地域で暮らすことを目的とする。

【実施回数】週2回（対面2時間、オンライン1時間）（対面37回、オンライン32回）

【受講者数】83人（対面45人、オンライン38人）

【実施場所】豊中市庄内公民館、とよなか国際交流センター

【受講者募集方法】市の広報誌やHP等で募集した。

【内容】テキスト「きいて まねして はなして」を用いて、対面とオンライン授業をそれぞれ実施した。
また、個別の質問や自習の場を設けた。

【開始した月】4月

【講師】日本語教育アドバイザー1人（日本語教師）、オンライン講師8人、対面講師7人

【関係機関との連携】庄内公民館

豊中市南部の庄内地域にある公民館において、場所の提供および参加者への活動周知・広報など。

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】有

<活動2>

【名称・実施場所・実施回数・受講者数】

①月曜日 10時～12時

もっともっとなつかえるにほんご（とよなか国際交流センター）

39 回、46 人

②火曜日 10 時～12 時

しょうない・おやこでにほんご（庄内図書館）

16 回、20 人

③火曜日 10 時～12 時

おかまち・おやこでにほんご（岡町図書館）

32 回、24 人

④火曜日 10 時～12 時

せんり・おやこでにほんご（千里図書館）

32 回、30 人

⑤木曜日 10 時～11 時 30 分

千里にほんご（千里公民館・千里図書館）

39 回、23 人

⑥木曜日 13 時 30 分～15 時 20 分

とよなかにほんご・木ひる（とよなか国際交流センター）

38 回、48 人

⑦金曜日 10 時 30 分～12 時

とよなかにほんご・金あさ（とよなか国際交流センター）

41 回、82 人

⑧日曜日 10 時～12 時

にちようがちゃがちゃだん（とよなか国際交流センター）

41 回、63 人

【目標】既存のボランティアによる日本語教室を支援することで、幅広い日本語学習機会を確保する。

【受講者募集方法】各ボランティアグループ等が独自に募集活動を行うとともに、HP 等で情報発信を行った。

【内容】上記①、⑤、⑥、⑦、⑧は、日本語ボランティア養成講座を修了した市民ボランティアによって自主的に運営している外国人と日本人が日本語で交流を図る場。

上記②、③、④は、日本人親子のボランティアと外国人親子のボランティアが日本語で交流して、生活や子育てなどの情報交換や相談等を行う場。

【開始した月】4 月

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】有

・日本語教育人材に対する研修

【名称】ボランティアフォローアップ講座

【実施回数】3 回

【会場】とよなか国際交流センター

【参加者】42 人

【講師】亀田 美保（大阪 YMCA）、矢谷 久美子（日本語教育支援グループ「ことのは」）、
橋本 理佳、神田 真理子（日本語講師）

【内容】日本語ボランティアとしてのスキルをブラッシュアップするための講座。また、豊中市における
外国人の状況に関する説明なども行い、南部日本語・オンライン日本語への参加を呼び掛け、人
材確保の場としても活用した。

【名称】おやこでにほんごボランティア養成講座（「おやこでにほんご」ボランティアの養成）

【実施回数】3 回

【会場】オンラインツール Zoom

【参加者】17 人

【講師】とよなか国際交流協会職員、活動に参加している外国人ボランティア／
田中 一歩、近藤 孝子（にじいろ i-Ru）／山中 早苗（頌栄短期大学）

【内容】現在の「生活者としての外国人」を取り巻く状況、おやこでにほんごボランティアに求められる
ことなど、おやこでにほんごボランティア養成のための講座。

【名称】ボランティアフォローアップ講座（テキスト編）

【実施回数】1 回

【会場】とよなか国際交流センター

【参加者】26 人

【講師】安田 乙世（日本語学習支援グループ「ことのは」）

【内容】現在活動されているボランティアの方を対象に、より学習支援のスキルを向上させる講座。

【名称】日本語ボランティア養成講座

【実施回数】2 回

【会場】オンラインツール Zoom

【参加者】35 人

【講師】吉 沅洪（立命館大学）、名嶋 義直（琉球大学）

【内容】日本語教室で活動するボランティアを養成するため、現在の「生活者としての外国人」を取り巻
く状況、にほんごボランティアに求められることなど、にほんごボランティア養成のための講
座。

【名称】ボランティアフォローアップ講座（イラスト編）

【実施回数】1 回

【会場】とよなか国際交流センター

【参加者】30 人

【講師】児島 弥生（大阪 YWCA 日本語教師会）

【内容】イラストを使った活動方法に関する研修を通して、日本語交流活動について考える、新たに活動を開始したボランティアのためのフォローアップ講座。

池田市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】50 人

<活動 1>

【名称】にほんごカフェ

【目標】日本に来て間もない外国人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人が、地域で生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。

【実施回数】96 回（オンライン：1 回 45 分・対面：1 回 1.5 時間）

4 月～7 月 オンライン・対面 併用 週 3 回（延べ 43 回）

5 月～1 月 対面 週 2 回（延べ 53 回）

【受講者数】延べ 632 人（登録者数 36 人）

オンライン 延べ 201 人、対面 延べ 431 人

【実施場所】池田市ダイバーシティセンター

【受講者募集方法】市の広報誌、IDC フェイスブック、情報誌

【内容】生活に役立つ会話を中心とした日本語をボランティアと共に学びながら交流した。火曜日、木曜日、土曜日（7 月で終了）の午前中に開催。

【開始した月】4 月

【講師】22 人（うち日本語教師 0 人）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】有

<活動 2>

【名称】にほんごきょうしつ

【目標】外国人が社会で安心して暮らせる程度の日本語能力の獲得を支援する。

【実施回数】24 回（1 回 1.5 時間）

【受講者数】119 人（登録者数 9 人）

【実施場所】池田市ダイバーシティセンター

【受講者募集方法】市広報誌、IDC フェイスブック、情報誌

【内容】日常会話が可能な外国人を対象に、より円滑なコミュニケーション能力の向上を図った。

【開始した月】5 月

【講師】 1 人（うち日本語教師 1 人）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】 有

<活動 3>

【名称】 子どもの日本語教室「TBY -To Be Yourself- 外国にルーツを持つ子どもの居場所事業」

【目標】 来日間もない、あるいは長く日本で生活しているが、日本語の習得が不十分な子どもへ、有償ボランティアの協力により日本語学習の支援の場所を提供する。

【実施回数】 週 1 回（延べ 37 回）（1 回 1.5 時間）

【受講者数】 96 人（登録者数 5 人）

【実施場所】 池田市ダイバーシティセンター

【受講者募集方法】 市広報誌、IDC フェイスブック、情報誌

【内容】 マンツーマンで子どもの状況に合わせた日本語指導を行った。

【開始した月】 4 月

【講師】 6 人（うち日本語教師 0 人）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】 無

・日本語教育人材に対する研修

【名称】 ボランティア養成講座

【実施回数】 2 回

【会場】 池田市ダイバーシティセンター

【参加者】 37 人

【内容】 「外国につながる市民の情報発信を考える」吉富 志津代

「きいて まねして はなして」活用法など 大阪府職員（総括コーディネーターの出前講座）

【名称】 ミニスキルアップ講座

【実施回数】 5 回

【会場】 池田市ダイバーシティセンター

【参加者】 延べ 29 人

【内容】 テキストの活用法や、授業の進め方など。ボランティア同士の交流も図った。

箕面市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】 86 人

<活動 1>

【名称】日本語読み書き教室「ささゆり」

【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会（日本語読み書き）の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。

【実施回数】32回（1回2時間。うちオンラインのみ4回含む。）

【受講者数】延べ428人

【実施場所】箕面市立多文化交流センター

【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど

【内容】市民団体「T.E.S.にほんご」による指導のもと、入門レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室を開催した。カリキュラムについては、市販の教材「Basic Kanji Book」を活用し、レベル別でのグループレッスンを行った。

また、ボランティアによる就学前までの保育を設け、子育て世代でも安心して日本語を学習できる機会を提供した。（多文化子ども保育全28回実施）

【講師】延べ160人（5人×32回）

【関係機関との連携】市民団体「T.E.S.にほんご」への委託

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動2>

【名称】日本語会話教室「あかね」

【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会（日本語会話）の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。

【実施回数】32回（1回2時間。うちオンラインのみ4回含む。）

【受講者数】延べ517人

【実施場所】箕面市立多文化交流センター

【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど

【内容】市民団体「T.E.S.にほんご」による指導のもと、入門レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室を開催した。カリキュラムについては、市販の教材「みんなの日本語」を活用し、レベル別でのグループレッスンを行った。

また、ボランティアによる就学前までの保育を設け、子育て世代でも安心して日本語を学習できる機会を提供した（多文化子ども保育全28回）。

【講師】延べ192人（6人×32回）

【関係機関との連携】市民団体「T.E.S.にほんご」への委託

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動3>

【名称】定住者のための日本語読み書き教室「萱野にほんご」

【目標】地域で生活する外国人市民に対して、生活に必要な日本語を習得してもらう。
【実施回数】36回（1回1.5時間）
【受講者数】延べ342人
【実施場所】箕面市立萱野中央人権文化センター
【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど
【内容】ボランティアが外国人市民を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。
【講師】延べ300人（平均8.3人／回）
【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動4>

【名称】日本語学習支援「ひまわり」
【目標】地域で生活する外国人市民に対して、生活に必要な日本語を習得できる機会を提供すると同時に、ボランティアとの交流を通じて、地域とのつながりや相互理解を促進する。
【実施回数】33回（1回1.5時間）
【受講者数】延べ349人
【実施場所】箕面市立多文化交流センター
【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど
【内容】相互理解の促進を図りながら、ボランティアが外国人市民の日本語学習の支援を行った。
【講師】延べ512人（平均15.5人／回）
【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動5>

【名称】おやこで日本語「さんさんクラブ」
【目標】孤立しやすい子育て中の外国人市民が、「子育て」という共通点を持つボランティアから日本語を学び、地域とのつながりや相互理解を促進する。
【実施回数】2回（1回4時間）
※新型コロナウイルスの影響により、対面による開催での需要が減少したため、市と国際交流協会が協議し、予定回数を減らし、1回あたりの時間数を増やした。
【受講者数】延べ20組
【実施場所】箕面市立多文化交流センター
【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど
【内容】「子育て」という共通点を持つボランティアと外国人市民が子どもと一緒に参加し、日本語でコミュニケーションをとりながら、相互理解を図った。
【講師】延べ7人（平均3人／回）
【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動6>

【名称】東にほんご

【目標】地域で生活する外国人市民に生活に必要な日本語を習得してもらう。

【実施回数】37回（1回1.5時間）

【受講者数】延べ239人

【実施場所】箕面市立東生涯学習センター

【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど

【内容】ボランティアが外国人市民を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。

【講師】延べ248人（平均6.7人／回）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動7>

【名称】西南にほんご

【目標】地域で生活する外国人市民に生活に必要な日本語を習得してもらう。

【実施回数】36回（1回1.5時間）

【受講者数】延べ286人

【実施場所】箕面市立西南生涯学習センター

【受講者募集方法】市HPや多文化交流センターHP、チラシなど

【内容】ボランティアが外国人市民を対象に、それぞれの課題意識に基づき日本語指導を行った。

【講師】延べ199人（平均5.5人／回）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動8>

【名称】放課後等の時間を利用した日本語指導

【目標】箕面市内の小・中学校に在籍する日本語理解が困難な児童・生徒に、日本での生活に必要な日本語を身に付けてもらう。

【実施回数】175回（1回1～2時間程度）

【受講者数】延べ1,225人

【実施場所】市内小・中学校（7校）

【受講者募集方法】外国にルーツをもつ児童・生徒及び保護者への声かけ

【内容】ボランティアが、それぞれの日本語の習得度に基づき日本語指導を行う。

【講師】6人

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

・日本語教育人材に対する研修

【名称】多文化ボランティアセミナー

(1)「国際交流協会の事業のあれこれ聞いてちょう」

講師：公益財団法人箕面市国際交流協会職員

日時：2022年5月14日（土）午後2時～4時

場所：多文化交流センター

参加者：43人

(2)「ボランティア活動の真髓を語る」

講師：国際交流協会活動するボランティア、外国人市民

日時：2022年5月21日（土）午後2時～4時

場所：多文化交流センター

参加者：65人

(3)「多文化な子どもの力を育む～母語教室から見えるもの～」

講師：大野 友 アンドレイア（Chat³スペイン語とポルトガル語の母語クラブ）

李 鉉淑、洪 美羅（子ども韓国語教室）

矢元 貴美（コメンテーター・大阪大学大学院人文学研究科）

日時：2022年10月15日（土）午後2時～4時

場所：多文化交流センター

参加者：33人

(4)「医療への壁を越えるために～地域における外国人医療の現状とこれから～」

講師：中村 智子、中本 剛二（みのお外国人医療サポートネット）

日時：2022年10月22日（土）午後2時～5時

参加者：40人

【名称】ボランティア研修会

(1)「MAFGA と話そう！～地域日本語教室のこれからについて～」

講師：河合 大輔（公益財団法人箕面市国際交流協会）

日時：2022年12月9日（金）午後1時～2時

場所：多文化交流センター

参加者：20人

吹田市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】102人

<活動1>

【名称】日本語1

【目標】日本で安心して生活するために必要な日本語や日本の習慣を習得する。

市民や学習者同士の交流を通して相互理解の促進を図る。

【実施回数】75回（週2回、1回1.5時間）

【受講者数】延べ754人

【実施場所】千里ニュータウンプラザ6階 公益財団法人吹田市国際交流協会 教室

【受講者募集方法】市報すいた、市ホームページ、案内チラシ、委託事業者ホームページ・フェイスブック・外国人向けメールマガジンほか

【内容】初めて日本語を学ぶ人を対象にした日本語教師によるクラス。

「できる日本語初級」のテキストを使用し、半年単位で同じ内容の授業を前期と後期に分けて実施。

具体的な指導内容：オリエンテーション、第1課 はじめまして

第2課 買い物・食事

第3課 スケジュール

第4課 私の国・町

第5課 休みの日

第6課 一緒に

第7課 友達の家で

第8課 大切な人

第9課 好きなこと

第10課 バスツアー

第11課 私の生活

第12課 病気・けが

第13課 私のおすすめ

第14課 国の習慣

第15課 テレビ・雑誌から

【開始した月】4月

【講師】2人（うち日本語教師2人）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動2>

【名称】日本語2

【目標】日本で安心して生活するために必要な日本語や日本の習慣を習得する。

市民や学習者同士の交流を通して相互理解の促進を図る。

【実施回数】75回（週2回、1回1.5時間）

【受講者数】延べ516人

【実施場所】千里ニュータウンプラザ6階 公益財団法人吹田市国際交流協会 教室

【受講者募集方法】市報すいた、市ホームページ、案内チラシ、委託事業者ホームページ・フェイスブック・外国人向けメールマガジンほか

【内容】簡単な会話ができる人を対象にした日本語教師によるクラス。

「できる日本語初中級」のテキストを使用し、半年単位で同じ内容の授業を前期と後期に分けて実施。

具体的な指導内容：第1課 新しい一歩

第2課 楽しいショッピング

第3課 私の目標

第4課 住んでいる町で

第5課 大変な一日

第6課 旅行に行こう

第7課 西川さんの家へ

第8課 ありがとう

第9課 アルバイト先で

第10課 旅行に行って

第11課 地域社会の中で

第12課 私の健康法

第13課 親の気持ち・子の気持ち

第14課 イベント・行事

第15課 気になるニュース

【開始した月】4月

【講師】2人（うち日本語教師2人）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動3>

【名称】サマーコース

【目標】日本語1・2の学習者をフォローするとともに、日本語の習得度が高くなく、日本語1・2の前期クラスでの学習が難しい新規の学習者に対し、秋以降の後期クラスにおいて、スムーズに学習を始められるよう夏季期間に実施。

【実施回数】8回（1回1.5時間）

【受講者数】延べ75人

【実施場所】千里ニュータウンプラザ6階 公益財団法人吹田市国際交流協会 教室

【受講者募集方法】市報すいた、市ホームページ、案内チラシ、委託事業者ホームページ・フェイスブック

ク・外国人向けメールマガジンほか

【内容】日本語 1・2 のクラスが休講となる夏休みを利用して短期のクラスを実施。

ひらがなコース、かいわコースの 2 コース。ひらがなコースでは、ひらがな・カタカナの読み書き、自己紹介等の簡単な会話を学習。かいわコースでは、日本語学習サイト『つながるひろがるにほんごでの暮らし』（文化庁）を使い、日常生活で役に立つ会話を練習した。

【開始した月】 8 月

【講師】 2 人（うち日本語教師 2 人）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】 無

・その他の取組

【名称】 オンライン会話クラス

日本語 1・2 のクラスでは会話を練習する時間の確保が難しいため、入門から初級レベルの学習者を対象として、冬季期間に会話練習を中心としたクラスを 4 回実施。

【日時】 令和 5 年 1 月 24 日、31 日、2 月 7 日、14 日 午前 10 時～11 時（1 時間）

【会場】 オンライン

【対象】 日本語習得度が入門から初級レベルの人

【参加者】 18 人

【講師】 1 人（うち日本語教師 1 人）

【内容】 各回テーマを設け、テーマについて日本語で話す練習と学習者同士で会話の練習を行う。

テーマ：『自己紹介』、『自分の経験』、『一日のスケジュール』、『料理』

【名称】 日本語教室発表会

学習成果の発表や地域住民との交流を図る機会として、日本語教室の学習者が日本語でスピーチを行う成果発表会を実施した。

【日時】 令和 4 年 12 月 11 日 10：00～12：00（2 時間）

【会場】 吹田市立市民公益活動センター（ラコルタ）

【対象】 日本語教室で日本語学習をしている人

【発表者】 10 人

【観覧者】 会場：29 人、配信視聴者：22 人

【内容】 10：00 開会挨拶・本会の説明

10：10 スピーチ（10 人）

12：00 閉会

発表会の様子を Youtube でライブ配信。

配信後も視聴できるよう 10 日程度アーカイブ動画を公開。

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】77人

<活動1>

【名称】日本語教室

【目標】市内在住の外国人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。

【実施回数】週5回（週2回1か所、週1回3か所）

【受講者数】4か所計77人（延べ1320人）

【実施場所】茨木市中央公民館、沢良宜いのち愛ゆめセンター、総持寺いのち愛ゆめセンター、豊川いのち愛ゆめセンター

【受講者募集方法】市の広報誌やちらしで公募

【内容】市内在住の外国人が生活するうえで必要な日本語習得を目的として、指導者とマンツーマン方式で指導を行った。指導は地域住民から募った学習支援者が行った。

【開始した月】4月

【講師】延べ1320人（うち日本語教師0人）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

・日本語教育人材に対する研修

【名称】日本語指導者研修

【日時】第1回 令和4年11月10日（木）

第2回 令和4年11月28日（月）

【会場】茨木市上中条青少年センター

【対象】現在、日本語の指導者活躍している人、日本語指導に興味を持っている人

【参加者】延べ60人

【講師】第1回 市内で実施している日本語教室の各指導者

第2回 藪崎 淳子（追手門学院大学）

【内容】第1回 実際指導していて苦労した事、考えた事など

第2回 日本語のむずかしさ・おもしろさ

・その他の取組

【名称】多文化交流サロン

【目標】地域の人との交流をふまえた場を創設し、学習した日本語を活用する場の提供、文化の理解等をサポートする。

【実施回数】オンラインによる交流会40回（1回2時間）

多文化交流会サロン（対面）15回（1回5時間）

各教室合同サロン2回（1回4時間）

日本語学習会「災害時の日本語」10回

【実施場所】豊川いのち愛ゆめセンター、総持寺いのち愛ゆめセンター、沢良宜いのち愛ゆめセンター等

【受講者募集方法】市広報誌、HP、ちらし等で募集

【内容】市内在住の外国人や地域住民が交流できるサロン（オンラインを含む）を開催し、日本語を活用する場を提供するとともに、文化の理解等を支援した。

枚方市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】140人

<活動1>

【名称】枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」

【目標】日常生活において、日本語の読み書きや会話に困っている方を対象として、枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」を市内6か所で開設している。日本語の学習を通じて、自身の暮らしを豊かにすることや、やりたいことの実現を通じて、その地域に住むすべての人が、豊かに生き生きと暮らすことができる社会の実現を目指す。

【実施回数】6か所計470回（1回2時間）

【受講者数】6か所計140人（延べ1,606人）

【実施場所】市立生涯学習市民センター（6か所）

【受講者募集方法】市の広報誌やSNS等で募集した。

【内容】日常生活において、日本語の読み書きや会話に困っている方を対象に、日本語学習の場を提供した。

【スタッフ】88人 ※日本語教師有資格者数は、経歴不問のため把握していない。養成講座修了の新規スタッフを含む。

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

・日本語教育人材に対する研修

【名称】枚方市日本語・多文化共生教室「よみかき」スタッフ養成講座

【開催時期】令和4年8月～10月 16回（コマ）（1日2コマで8日間実施）

【会場】中央図書館、地域活性化支援センター、サンプラザ生涯学習市民センター

【対象】スタッフ養成講座修了後、教室でボランティア従事することが可能な市民等

【参加者】延べ440人（受講者数28人）

【内容・講師】

①8月29日（月）17時～20時

「開講式・オリエンテーション 『よみかき』 教室趣旨説明」

講師：枚方市職員

「『傾聴』のワークショップ」

講師：山野上 隆史（公益財団法人とよなか国際交流協会）

② 9月1日（木）17時～20時

「在留資格について」

「在留外国人の主な来日理由や、日本における生活状況について」

講師：川添 賢史（行政書士川添国際法務事務所）

③ 9月6日（火）17時～20時

「『日本語学習支援』ってなに？ 『識字・日本語教室』って、どんなところ？」

「『識字・日本語ボランティア』で大切なこと」

講師：松藤 昌代（日本語教育・多文化共生推進協会 kotoba）

④ 9月15日（木）17時～20時

「本当の意味での『多文化共生』とは」

「『生活者としての』外国人に対する日本語教育について」

講師：榎井 縁（大阪大学）

⑤ 9月28日（水）17時～20時

「日本語学習支援①（聞くこと）」

「日本語学習支援②（話すこと）」

講師：安田 乙世（特定非営利活動法人おおさかこども多文化センター）

⑥ 10月5日（水）17時～20時

「日本語学習支援③（読むこと）」

「日本語学習支援④（書くこと）」

講師：安田 乙世（特定非営利活動法人おおさかこども多文化センター）

⑦ 10月14日（金）17時～20時

「『やさしい日本語』について」

「適切な教材等の選択・活用方法について」

講師：門脇 薫（摂南大学）

⑧ 10月20日（木）17時～20時

「『異文化コミュニケーション』について」

講師：門脇 薫（摂南大学）

「閉校式」

【名称】「よみかき」教室スタッフ スキルアップ研修

【日時】令和5年2月15日（水）14時～16時

【会場】中央図書館

【対象】「よみかき」教室スタッフ

【参加者】31 人

【講師】門脇 薫（摂南大学）

【内容】「多文化共生のための日本語教育」

初級レベルの学習者への対応のための、多文化共生社会の中で求められる「やさしい日本語とはなにか」を学んだ。

交野市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】32 人

<活動 1>

【名称】学びの場

【目標】来日したばかりの人や、留学生又は長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった外国人に対して日本語指導を行い、日本語学習の機会の提供を行うとともに日常生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。

【実施回数】33 回（1 回 2 時間）

【受講者数】登録者数 15 人

【実施場所】交野市立青年の家

【受講者募集方法】市のHPで募集

【内容】「みんなの日本語」等を教材として、学習者の日本語能力に応じて、学習支援者がマンツーマンによる授業を行った。

国籍や世代の差を超えた学習者の交流のため、異文化交流等も行い、学習だけではなく、みんなが楽しんでお互い学べる場とした。

【開始した月】4 月

【講師】登録者数 12 人（うち日本語教師 0 人）

【関係機関との連携】北河内の日本語教室担当者と連携をとり、北河内識字・日本語交流会の参加や支援を行った。

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動 2>

【名称】日本語ブラザ

【目標】来日したばかりの人や、留学生に対して日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに日常生活に困らない程度の日本語能力の獲得を支援する。

【実施回数】73 回（週 2 回：1 回 1 時間 30 分）

【受講者数】登録者数 17 人

【実施場所】交野会館

【受講者募集方法】HP・ポスター等で募集

【内容】入門レベルの日本語学習者を対象とし、日本文化の情報をおり混ぜながら、個々のレベルに合わせて、マンツーマンで地域の日本語学習支援者により指導を行った。

【開始した月】4月

【講師】登録者数 15 人（うち日本語教師 0 人）

【関係機関との連携】北河内の日本語教室担当者と連携をとり、北河内識字・日本語交流会の参加や支援を行った。

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

東大阪市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】232 人

<活動 1>

【名称】よみかき教室

【目標】学習機会の拡充を図るとともに、日常生活に不自由のない程度の読み書きができることを支援する。

【実施回数】81 回（1 回 2 時間）

【受講者数】18 人（あさの教室：4 人、ひるの教室：6 人、よるの教室：8 人）

【実施場所】あさの教室：東大阪市若江岩田駅前市民プラザ

ひるの教室：東大阪市立東体育館

よるの教室：東大阪市立菱屋西公民分館永和分室

【受講者募集方法】市政だより及びウェブサイトで募集

【内容】新聞に掲載されているエッセーや日常生活でよく使われることわざや慣用句、熟語などの教材を用意。学習生の読み書きの程度に合わせ、ひらがなや漢字などの学習支援を行った。

【開始した月】4月

【講師】14 人（うち日本語教師 1 人）

【関係機関との連携】「国際識字年推進東大阪連絡会」と連携し「2022 年識字展」を開催。

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動 2>

【名称】日本語教室

【目標】外国人住民に日本語を学習する場を提供し、日本語によるコミュニケーションを通じて支援していくとともに、国際交流に貢献する。

【実施回数】300回（1回1時間30分）

【受講者数】登録者数214人（上期・下期合計）（8か所）

【実施場所】東大阪市内の施設

【受講者募集方法】市政だより、市ウェブサイト、特定非営利活動法人東大阪日本語教室のウェブサイト

【内容】主として、ボランティアと学習者のペア方式により日本語学習を行った。

来日したばかりの学習者については、講義形式により初期の日本語学習を行うなど、学習者の適性に応じた授業を展開した。

学習者が日本での生活に支障をきたさないように、実生活に適した日本語学習を行う場を提供した。

【開始した月】4月

【講師】ボランティア210人（上期・下期合計）（8か所）

【関係機関との連携】特定非営利活動法人東大阪日本語教室と委託契約を締結し、日本語教室を開催。

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

・日本語教育人材に対する研修

【名称】ボランティアスキルアップ研修会及び育成のための講習会

【実施回数】1回

【参加者】28人

【内容】ボランティアのスキルアップを目的とした研修会及び育成のための講習会。

柏原市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】26人

<活動1>

【名称】かしわら日本語教室

【目標】柏原市に居住もしくは通勤・通学をされている方で、日本語を習得し日常生活や仕事における日本人とのコミュニケーションを円滑に図れるようになりたいと希望するすべての外国人に、初歩的～中級程度の日本語能力獲得を目指した講座を開設してその学習を支援する。

【実施回数】41回（1回3時間）

【受講者数】26人

【実施場所】柏原市立国分図書館

【受講者募集方法】市HPに案内を掲載

【内容】大学教授によるコーディネイトの元、日本語講師を紹介いただき、初級・中級レベルの日本語学習者を対象とした日本語教室を開催した。講師及びレベルごとに4つのクラスを設け、受講者のレベル別の授業を行った。実施は毎週土曜日午前中。受講希望者は事前に教室へ出向いて申込書

の提出とレベル分けの簡易なテストを受けていただき、次期受講開始期日（おおよそ四半期ごと）から受講を始めた。

【開始した月】 4月

【講師】 2人（うち日本語教師2人）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】 無

河内長野市

・日本語教育人材に対する研修

【名称】 対話力を身につける「できる日本語」の使い方

【日時】 2022年6月18日（土）14：00～16：00

【会場】 河内長野市民交流センター3階大会議室

【参加者】 40名（日本語指導者13名、一般参加24名、スタッフ3名）

【講師】 嶋田 和子（一般社団法人アクラス日本語教育研究所）

【内容】 日本語サロンのボランティア指導者に対して指導教材とその指導法についての研修を公開講座として実施した。

・その他の取組

・在住外国人市民に向け日本語教室を広く周知するため、日本語教室紹介を中心としたパンフレットを下記の通り作成し、市内各施設、市役所窓口等で配布した。

【内容】 日本語サロン他、多文化共生活動についての紹介パンフレット

【装丁】 6ページ三つ折りでA4サイズ フルカラー

【部数】 2,000部

松原市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】 30人

<活動1>

【名称】 国際広場 “もめん”

【目標】 学習者と学習支援ボランティア（日本語学習パートナー）が日本語学習を通じてお互いに学びあう交流の場、身近な生活の場（公民館）にあって気軽に通いやすく、異なる文化的背景を持つ人が同じ市民として子育てや買い物・病院などの生活情報を交換できる場として、また、日本語が不自由なために地域や家庭で孤立しがちな人の「居場所」として機能する場を設ける。

【実施回数】 61回（1回1.5時間、1回2時間）

【受講者数】 30人

【実施場所】 市立松原公民館、市立新町公民館

【受講者募集方法】市の広報紙やHP、チラシ

【内容】学習者それぞれの希望に沿った日本語学習を行った。また、日本語学習支援者と異文化交流をする時間も設けた。

【開始した月】4月

【講師】33人

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

・日本語教育人材に対する研修

【講座名】日本語学習パートナー入門講座

【実施回数】3回（全4回のうち第2回中止）

【会場】まっばらテラス（輝）、松原公民館

【参加者】25人

【講師】第1回 森 実（大阪教育大学）

第2回 日本語学習パートナー（中止）

第3回 辻村 文子（大阪YWCA日本語教師会）

第4回 辻村 文子（大阪YWCA日本語教師会）

【内容】第1回 地域の日本語教室とパートナーの役割

第2回 日本語学習パートナーと受講者のとの話

第3回 外国語が母語の人と日本語でおしゃべりする方法

第4回 日本語で日本語を教える方法

・その他の取組

・日本語学習者ととともに小学校に対し「国際理解学習」として出前講座を実施した。

・地域日本語教室の場で職員と通訳ボランティアによる「外国人なんでも相談会」を実施した。

①令和4年9月20日 10時から12時

②令和4年9月25日 15時から17時

和泉市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】86人

<活動1>

【名称】日本語サロン

【目標】外国人受講者のニーズに応じた日本語の習得を、日本語ボランティアがサポートすることにより、受講者及びボランティアが双方の文化に触れて相互理解を深め、多文化共生施策及び国際交

流施策の推進に資することを目的とする。

【実施回数】82回（2教室各週1回：1回1時間30分）

【受講者数】1回平均15.9人（1回平均8.3人×1か所）＋（1回平均7.6人×1か所）

【実施場所】フューラル和泉、和泉シティプラザ

【受講者募集方法】市の広報やHPにより募集

【内容】市が主催する日本語ボランティア養成講座（全10回）を修了した日本語ボランティアが、地域に在住する外国人（市内在住に限定しない）を対象に、受講者のニーズに応じた日本語指導をマンツーマンで行った。

【開始した月】4月

【講師】59人

【関係機関との連携】和泉市国際交流協会

和泉市国際交流協会へ登録する日本語ボランティアが活動した。

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動2>

【名称】和泉読み書き教室

【目標】文字の読み書きが困難な方を対象に、学習機会を提供することを通じて、識字・日本語学習施策の推進を図ることを目的とする。

【実施回数】35回（週1回：1回2時間）

【受講者数】1回平均6.6人

【実施場所】和泉市コミュニティセンター

【受講者募集方法】市の広報で募集

【内容】ボランティア講師が、市内に在住又は在勤する15歳以上で文字の読み書きが困難な方を対象に、受講者のニーズに応じた日本語の読み書き指導をマンツーマンで行った。

【開始した月】4月

【講師】登録者数7人

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

<活動3>

【名称】いずみ識字学級

【目標】文字の読み書きが困難な方を対象に、学習機会を提供することを通じて、識字・日本語学習施策の推進を図ることを目的とする。

【実施回数】114回（3教室各週1回：1回2時間）

【受講者数】1回平均4.6人

【実施場所】和泉市立北部総合福祉会館、旭第二団地集会所、和泉市立人権文化センター

【受講者募集方法】市の広報で募集

【内容】教室の運営をいずみ識字ボランティアの会に委託し、ボランティア講師が、市内に在住又は在勤する 15 歳以上で文字の読み書きが困難な方を対象に、受講者のニーズに応じた日本語の読み書き指導を行った。

【開始した月】 4 月

【講師】 登録者数 12 人

【関係機関との連携】 いずみ識字ボランティアの会

出欠状況や学習内容の把握、研修会や交流会の企画・運営等の教室運営に係る業務の一部を委託し、協働して教室運営を行った。

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】 無

・日本語教育人材に対する研修

【名称】 日本語ボランティア養成講座

【日時】 下表参照

【会場】 和泉市コミュニティセンター

【対象】 市内在住又は在勤(学)の 18 歳以上で、日本語ボランティアとして活動する意思のある方

【参加者】 21 名

【講師】 澤田 幸子、高橋 華奈（一般財団法人海外産業人材育成協会）

【内容】

回	日	講師	内容
1	9/6	澤田	●地域日本語教室はどんなところ？ 多文化共生社会と地域日本語教室の役割 ・在住外国人の状況を知り、多文化共生社会について考える。文化とは何か、共生とはどういうことかを身近な例を通して考えてみる。 ・地域日本語教室は学習者にとって、またボランティアにとってどんな場所か、どんな場所にしたいか、話し合う。 ・地域日本語教室が多文化共生社会の中で果たす役割を知る。
2	9/13	澤田	●日本語ボランティアって何？ ・地域日本語教室で行われている多様な活動を知る。 ・「生活者としての外国人」に必要な日本語とは？ ・日本語ボランティアに求められること、大切にしたいことを考える。
3	9/20	高橋	●日本語再発見～外国語として日本語を見てみると～ ・文字・表記、語彙、言語運用など様々な面から見た日本語の特徴を学ぶ。 ・日本語を学ぶ外国人の視点に立って適切な支援ができるように、学習者にとって日本語のどんなところが難しいかを知る。
4	9/27	高橋	●外国人とのコミュニケーション『やさしい日本語』の達人になろう ・日本語がまだ十分ではない外国人とのコミュニケーションに有効な「やさしい日本語」について学ぶ。

			・「やさしい日本語」への言い換え練習を行い、学習者と日本語でコミュニケーションをとるコツを知る。
5	10/4	澤田	●対話型活動の勧め おしゃべりで学習者の話す力を伸ばそう① ・対話型活動とはどういうものか。 ・対話型活動の素材や具体的な活動の進め方を知る。
6	10/11	澤田	●対話型活動の勧め おしゃべりで学習者の話す力を伸ばそう② ・①で学んだ内容を実践してみましょう。
7	10/18	澤田	●ほとんど日本語がわからない入門期の学習者との活動 何から始める？どうやって進める？ ・「きいて まねして はなして」の紹介と演習 (令和元年度文化庁委託事業にて大阪府教育庁が作成した教材) ・教材のコンセプト、内容、使い方を知り、実際に試してみる。
8	10/25	高橋	●日本語文法と初級日本語テキストを見てみよう ・知っていると役に立つ日本語文法 ・文型で学ぶ初級日本語
9	11/1	澤田	●こんなときどうする？日本語ボランティアケーススタディ ・地域日本語教室でおこる様々な事例を取り上げ、意見交換する。 ・事例について考え、意見交換することで、日本語ボランティア活動がどう いうものかを再認識する。
10	11/8	澤田	●さあ始めよう！日本語ボランティア 講座での気づき、学びを実践につなげるために ・講座の振り返りと質疑応答 ・教室見学の感想 ・日本語ボランティア活動で大切にしたいことを話し合う。

【名称】識字・日本語教室 堺・泉北ブロック合同研修

【日時】令和4年11月29日

【会場】和泉市コミュニティセンター

【対象】堺市、和泉市、高石市、泉大津市、忠岡町の識字・日本語教室で活動する学習支援者、学習支援希望者、行政担当者

【参加者】20名

【講師】児島 弥生（大阪YWCA日本語教師会）

【内容】日本語を教える際に使えるイラストの基本的な描き方や、様々な状況や文章をイラストを用いて表現する方法について。

・その他の取組

【名称】日本語サロン交流会（七夕・お正月）

【日時】七夕（シティプラザ）：令和4年7月1日 18：30～20：00（1時間30分）

お正月（シティプラザ）：令和5年1月13日 18：30～20：00（1時間30分）

お正月（フチュール）：令和5年1月19日 19：00～20：30（1時間30分）

【会場】和泉シティプラザ・フチュール和泉

【対象】日本語教室の学習者及び学習支援者

【参加者】各40名程度

【内容】日本の伝統文化に触れられる四季折々のイベント開催を通じて、日本語学習支援者及び外国人受講者が互いの文化について理解を深め、日本語を楽しく学びながら交流を行った。

【名称】堺・泉北よみかき交流会

【日時】令和5年2月5日 13：30～16：50（3時間20分）

【会場】和泉市立人権文化センター

【対象】堺・泉北ブロック（堺市・和泉市・泉大津市・高石市・忠岡町）識字・日本語教室の学習者・支援者及び行政職員等

【参加者】和泉市参加者数16人（総参加者数77名）

【内容】おしゃべりのひろば、作文のひろば、かるたのひろば、おどりのひろば

貝塚市

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】79人

<活動1>

【名称】日本語サロン

【目標】来日したばかりの人や、長年日本に暮らしている日本語を学ぶ機会がなかった人に対する日本語指導を行い、日本語学習機会の提供を行うとともに、生活に困らない程度の日本語能力獲得を支援する。

【実施回数】242回

1回：1時間

【受講者数】延べ1,964人（登録会員数79人） ※マン・ツー・マン形式

【実施場所】かいづか国際交流協会事務所

【受講者募集方法】会報誌、HP、講師の呼びかけ

【内容】地域住民から募ったボランティアが日本語学習指導者となり、日本語学習者（在住外国人）のレベルに応じたカリキュラムを策定し、それぞれの課題に対して日本語指導を行った。指導を行うのは、「日本語ボランティア養成講座」を修了した者で、指導者に対してはスキルアップ講座を

実施し、学習者にとってより分かりやすい授業を提供できるようになった。

【開始した月】4月

【講師】約23人/月

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

・日本語教育人材に対する研修

【名称】日本語ボランティア養成講座

【実施回数】18回（うち共同開催6回）

【会場】貝塚市シルバー人材センター2階、オンライン

【参加者】8人

【講師】日本語学習指導者数名

【内容】かいつか国際交流協会の日本語サロンでの支援者となるために、やさしい日本語で日本語を教えるコツを学ぶ講座。動詞や形容詞の他に、表現や発音等幅広く学び、日本語が不自由なために生活に困難を抱えている外国人に日本語を教え、問題なく生活を送れるように手助けをする。

また、近隣市（泉佐野地球交流会）と共同で、養成講座を実施し、受講者同士のスキルアップや交流を図ることができた。

【名称】スキルアップ講座「日本語があまり話せない人との活動」

【目標】日本語が十分でない人とのコミュニケーションの取り方を学び、今後の日本語指導へ活かしていく。

【日時】令和4年8月27日（土）午後1時00分～午後3時00分

【会場】貝塚市市民福祉センター4階 多目的室

【参加者】32人

【講師】大西 雅子（大阪YWCA日本語教師会）

【内容】日本語が十分でない方への支援時に、学習支援者が心掛けておく点や言葉だけでなく表情やジェスチャー、イラストなどを活用し、意思疎通のノウハウを学んだ。

【名称】スキルアップ講座「日本語がうまく話せない人・少し話せる人との関わり方」

【目標】日本語は少し話せるが、日本語の文法を意識した支援方法を学び、今後の日本語指導へ活かしていく。

【日時】令和5年1月28日（土）午後1時30分～午後3時30分

【会場】貝塚市役所5階 会議室

【参加者】21人

【講師】大西 雅子（大阪YWCA日本語教師会）

【内容】日本語が十分でない方への支援時に、学習支援者が心掛けておく点や言葉だけでなく表情やジェスチャー、イラストなどを活用し、意思疎通のノウハウを学んだ。

・地域日本語教育の実施

【受講者数（実人数）】33人

<活動1>

【名称】阪南市日本語教室

【目標】来日したばかりの人や長年日本に暮らしているが日本語を学ぶ機会がなかった人に対し、マンツーマン方式で日本語指導を行い、日本語学習機会の提供と言葉の違いから生じる様々な問題を解決し、生活に困らない程度や就労に役立つ日本語能力の獲得を支援する。

【実施回数】受講者1人週1回（1回1時間30分）

【受講者数】33人

【実施場所】阪南市立東鳥取公民館

【受講者募集方法】市の広報誌やHPで募集

【内容】テキスト「みんなの日本語」等を活用し、受講者の個人のレベルに合わせて、阪南市日本語養成講座を終了したもので構成される阪南市日本語クラブ員が週1回を基本にマンツーマンで指導する方式を取る日本語教室を開催する。

【開始した月】4月

【講師】47人（うち日本語教師0人）

【日本語教育の参照枠や、標準的なカリキュラム案等の活用の有無】無

・日本語教育人材に対する研修

【名称】阪南市日本語指導ステップアップ講座

【日時】令和4年10月15日～令和5年2月4日（土曜日 午後7時～8時30分）

【会場】阪南市立東鳥取公民館 1階 講堂

【対象】阪南市日本語クラブの日本語指導者等

【参加者】20名（うち修了した者18名）

【講師】中村 真奈美、酒井 登代子、外部講師 岩田 光弘、松藤 昌代

【内容】「みんなの日本語初級Ⅱ 第2版」を参考教材として日本語指導者の質的向上を図るとともに、日本語教室の内容的充実も図れた。

- ・テキストを使った文法項目の演習
- ・外部講師による地域日本語支援事業の実例及び意見交換
- ・外部講師による日本語指導者の心構えと実例

5 主要な取組の実施状況

令和4年4月	・総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターの配置 ・市町村による日本語教育人材に対する研修や地域日本語教育の実施等の開始 ・市町村識字・日本語学習担当者連絡会議（第1回）の開催
5月	
6月	・大阪識字・日本語協議会担当者連絡会（第1回）の開催 ・大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議（第1回）の開催
7月	・大阪識字・日本語協議会（第1回）の開催 ※総合調整会議
8月	
9月	
10月	・大阪識字・日本語協議会担当者連絡会（第2回）の開催 ・市町村識字・日本語学習担当者連絡会議（第2回）の開催 ・大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議（第2回）の開催
11月	
12月	
令和5年1月	・大阪識字・日本語協議会担当者連絡会（第3回）の開催
2月	・大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議（第3回）の開催
3月	・大阪識字・日本語協議会（第2回）の開催 ※総合調整会議 ・事業終了、実績報告書の提出

6 評価と検証

1. 令和4年度の計画の評価と検証方法
【令和4年度の目標】（再掲） 令和4年度については、③の課題を踏まえた上で、府と市町村との情報共有及び連携をさらに進めるように努める。具体的には、補助事業を活用した市町村の日本語教育の取組への財政的な支援の実施、府内の識字・日本語学習行政担当者が一堂に会する「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催を引き続き行う。さらに、文化庁の地域日本語教育コーディネーター研修修了者や国際交流協会の役員等で構成されている府の識字・日本語学習コーディネーターと総括コーディネーター等との会議である「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」に、本事業の地域日本語教育コーディネーターや本事業に参画する市の担当者等が加わり、情報交換や情報共有の場を新たに設けることにより、各コーディネーター間の連携を深め、地域の識字・日本語学習活動の充実を図る。また、総括コーディネーター等が講師として直接市町村や教室を訪問し、運営者や学習支援者等を対象として行う出前講座や、市町村ごとに行われていた人材育成研修の広域化、府が中心となっていく市町村や教室に向けた教材等の情報提供や好事例の発信などの取組をさらに推し進めていく。

【令和４年度の目標達成に向けた指標（定量評価・定性評価を含む。）】

本事業では、上記の目標達成のために以下の取組を主たる取組として実施する。

- ・市町村による地域日本語教育の実施や日本語教育人材の育成に対する補助
- ・総括コーディネーター、地域日本語教育コーディネーター、大阪府識字・日本語学習コーディネーターによる情報共有の場の設定
- ・総括コーディネーターによる市町村や教室に向けた教材等の情報提供や好事例の発信

これらの取組の進捗を確認するための指標として以下の点から評価を行った。

【指標１：定量評価目標】

本事業に参画し、地域日本語教育を実施する１３市（豊中市・池田市・箕面市・吹田市・茨木市・枚方市・交野市・東大阪市・柏原市・松原市・和泉市・貝塚市・阪南市）における学習者数（実人数）

○目標値 982 人（前年度実績 935 人）

○実績値 1,392 人

【指標２：定量評価目標】

本事業に参画し、日本語教育人材養成研修を実施する６市（豊中市・池田市・箕面市・枚方市・和泉市・貝塚市）における学習支援者数

○目標値 650 人（前年度実績 620 人）

○実績値 650 人

【指標３：定性評価目標】

本事業に参画した市町村の満足度

○目標値 85%（前年度実績 測定なし）

○実績値 91.3%

【検証方法】

○指標１、２については、当課において数値を集計し結果を得た。

○指標３については、本事業を活用する市町村に対して年度末にアンケートを実施した。

2. その他、令和４年度事業の評価と検証方法

【各取組の指標及び検証方法（定量評価・定性評価）】

【取組２－①】市区町村を支援して実施する日本語教育（地域日本語教育の実施）

（定性評価）本事業に参画し、地域日本語教育を実施する市町村における学習者の満足度

（検証方法）文化庁アンケート「この教室で勉強して日本語が前より上手になりましたか。」「この教室で勉強する前よりも日本語を使ってスムーズに生活ができるようになりましたか。」「日本語をもっと勉強したいですか。」について肯定的意見の割合を集計して検証

今年度目標 98.5%（前年度実績 98.5%）

今年度実績 95.6%

7 検証を踏まえた課題と今後の展望

1. 検証を踏まえた課題と今後の展望
(1) 検証を踏まえた課題 府と市町村と関連団体等が連携し、識字・日本語学習環境を強化するための支援体制づくりを行い、日本語学習機会の確保を図ることを目的に、学識経験者や国際交流団体と行政関係者等で構成する「大阪識字・日本語協議会」を総合調整会議と位置づけ、総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターの配置、「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」及び「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」を開催するとともに、市町村の地域日本語教育に係る取組に対する経費補助を含む支援を行ってきた。これらの取組により、府と市町村と関連団体等の連携が進んできていると判断している。 本事業に参画し、地域日本語教育を実施する13市における学習者数については、実績値1,392人であり、目標値982人を大きく上回る結果となった。一方で、日本語教育人材養成研修を実施する6市における学習支援者数は、実績値650人であり、目標値650人と同数であった。入国制限緩和等の影響もあり学習者数が大幅に増加する一方、学習支援者数の増加は緩やかであり、マンツーマンでの学習支援を基本としている教室では支援者が不足するなど、運営に係る課題が生じている。 日本語学習機会を安定的に確保するため、府と市町村と関連団体等が連携し、識字・日本語学習環境を強化するための支援体制づくりを進める必要がある。 (2) 今後の展望 府と市町村との情報共有及び連携をさらに進めるように努める。「市町村識字・日本語学習担当者連絡会議」の開催を継続するとともに、府内の識字・日本語学習に係る知見とネットワークを有しているコーディネーターから指導・助言を得る会議である「大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議」に市町村の行政担当者や地域日本語教育コーディネーター等が加わり、市町村等の域を越えた広域での情報交換や情報共有の場を設けることにより、府と市町村との連携を深め、府内の識字・日本語学習活動の充実を図る。 また、総括コーディネーター等が講師として直接市町村や教室を訪問し、教室運営者や学習支援者等を対象とした、識字・日本語学習に係る情報提供や府作成日本語学習教材の普及研修等を行う出前講座を実施する。また、府と市町村、関連団体等が参加する「大阪府における地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業取組報告会」（仮称）を開催し、情報交換の場を新たに設けるなど、市町村等の域を越えた広域での取組を進め、市町村への情報提供や好事例の発信などの取組をさらに推し進めることで、安定的な日本語学習機会の確保に資する。
2. その他、課題と困難な状況への対応方法等
(1) 課題と困難な状況への対応方法 前年度は、教室の休講、市町村域を越えた交流会や教室見学会等の中止などが生じていたが、令和4年度は、休校していた教室が再開、市町村域を越えた交流会や教室見学会等が対面で開催された。また、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により減少していた学習者が、入国制限緩和等により再び増加しており、地域の日本語学習環境を支える人材の確保と育成が必要となっている市町村が多い。学習支援者等の新たな人材の発掘するため、府と市町村が連携して養成講座、スキルアップ講座やステップアップ講座等を開催した。

【参考写真一覧】

取組番号	写真名
1－①	大阪識字・日本語協議会
1－③－1	市町村識字・日本語学習担当者連絡会議
1－③－2	大阪府識字・日本語学習コーディネーター会議
2－①	堺・泉北よみかき交流会



1－①



1－③－1



1－③－2



2－①